

じとぜんひろば



№ 35
発行 平成2. 12. 15
地御前コミュニティ
推進協議会

助けあい、ささえあい
みんなの力でまちづくり

人間は、一人では生きてゆかない。つねに大勢の人たちとともに、助け合って生きていく。その生活、職業、学問、趣味などにおいて、なににごとによらず志を同じくする人の集団をコミュニティと呼んでおります。人間は今日までいろいろと工夫をこらし、それぞれの形のコミュニティをつくり、その中で生活をしてきたと思います。廿日市市も昭和三十一年の五か町村の合併当時の人口は、一万九千二百十一人、現在は、六万四千余人、村から町、町から市へと大きく変わりました。こうした中で高令化、国際化、情報化、経済社会の成熟化の時代といわれ、私たちが取り巻く環境が大きく変貌する中で、廿日市の各地で、地域に対する愛着心を深めながら、その時代に対応していこうと色々な発想を生かし様々な活動が目につきます。幸いこの地御前地区は、広島県のコ推協第一号の指定を受

地域と住民

井上 守



け歴代会長、役員の方々を中心に新しく住民になられた人たちと交流を暖めながら、広報、文化、福祉、体育、生活、青少年の六部会を設け、活発に活動されており、特に先人が残した伝統文化の継承には頭がさがる思いです。文化な

き地に人は住まずといひます。逆にいへば人は文化豊かな場所に住みつくといひます。こうした観点から市の都市像である「健康で文化的な人間性豊かな住みよいまち」の実現を願っております。また

今、地域の活性化が叫ばれておりますが、活性化は、地域の人たちが地域づくりに燃えなければ駄目だと思ひます。言い換へれば自助努力、主体的努力です。前述の伝統文化ではありませんが、地域に有るものは生かし、無いものは作り、何が住民の幸せになるのか、何が地域の繁栄につながるのか、何が廿日市市の発展に寄与し得るのか、市民みんなが考えてみる必要があると思ひますが、隣の人は何をする人ぞではなく、遠い親戚より近くの他人といわれるような地域共同体的生活姿勢、即ち、みんなて手をつないで人情豊かな文化の香り高い、そして生きがいのあるまちの早期実現を夢みている今日この頃です。内会事務局長



人生元気一杯生き抜こう

鹿嶋 亨

師走を控えて、二十一世紀まであと十年足らずとなりました。十年ひと昔といひますが、世の中の暮らしを十年単位で見ても、すと、一九七〇年代は、経済の高成長時代で、私達の生活は急速に豊かになりました。一九八〇年代は、石油バニクという、資源ナシヨナリズムの台頭による、省資源省エネルギーの体験を経て、経済の安定成長時代を迎えます。ますます豊かな情報化社会を築き、今や世界の経済をリードするまでに繁栄しました。一九九〇年代は、国内的には、社会資本の充実、高齢化社会に向けての社会福祉制度の充実、労働時間の短縮に伴う余暇利用で、レクリエーション活動やカルチャー活動がますます盛んになり、精神的な豊かさを求める方向に進むことでしょう。しかしながら、無資源国日本は、世界からの

孤立化の道を選ぶべくもなく、門戸を大きく開いて、協調による世界の平和と人類の繁栄を築き上げる道を選ぶべき分岐点に立たされているのではないでしようか。さて、まあおきが長くなりまして、今や人生八十年時代を迎えております。人生をいかに健康で生き抜くかが重要な課題であると思ひます。私の少年時代、地御前小学校の本造三階校舎、二階の中連窓の下に、横並びで、(ま)健康という標語の看板が掲げてあったのを鮮やかに記憶しております。年配の方でご記憶の方も多いかと思ひます。年齢を重ねるにしたがって、つくづく思ひますことは、人生の幸せの根源は、まず健康にあり！健康が、なにものにも替え難い財産である！と。そこで、健康づくりの基本には「よく眠る」「バランスのとれた食事」「適度の運動」の三つが大切といわれております。自分の健康管理は、自分自身でするのが基本ですが、さて実行となると、とかくおろそかになりがちです。ここでは、「適度の運動」

について、私が実行している、日常生活の中で、手軽に、誰にでもできる運動(？)についてご紹介しましう。一 体の柔軟体操をする。ラジオ体操なら皆さんご存知のはず。自分なりにアレンジして。二 青竹踏みをする。三 手首と手指の運動をする。右廻し十回、左廻し十回を何回も繰り返す。指をボキボキと折り、両手の指先を合わせ扇型に開いて、両指先をはずみをつけて押し合う。四 両手の指先を、一本一本反対側の親指と人差指に挟んでもむ。五 足首を、手首と同じ要領で、右廻し十回、左廻し十回を繰り返す。足指五本を反対側の手でつかみ上下に反らす運動を繰り返す。以上、簡単なことですが、これを習慣化して、できるだけ毎日実行することが大切です。一・二の運動は、風呂上がりや退屈している時に、いつでも、どこでもできます。三・四の運動も、テレビを見ながら、或いは外の景色を眺めながら簡単にできることです。この運動は、手足の指先に集中している毛細管を刺激して、全身の血行を良くするのに効果的と思ひます。皆さん方も、健康の維持と増進に積極的に取り組んで、それぞれの人生を元気一杯に頑張つて、生きる喜びを十二分に享受しようではありませんか。

編集後記

一九九〇年も終らんとして、国内も国外も大きな問題をかかえたまゝ、一九九一年を迎えんとしています。廿一世紀はすぐそこまで来ています。果して廿一世紀がどんな時代になるのでしょうか。世の中がいかにか変わろうとも人間の心まで変わつてはなりません。過去十年有余培つて来たコミュニティの精神を生かして、豊かな明るい町づくりに進みたいものです。年の瀬にあたり第三五号のじとぜんひろばをおくりまします。皆さんよいお年をお迎え下さるようお祈り致します。

中井正文

この十月に、山陰の鳥取市へ小旅行をした。明るい晴れた昼前に、城跡の公園をひとりであらうついていると、木かげに大きな自然石がすわっているのが目についた。やっぱり記念碑で、黒みかげ石の板がはめこまれて、なんと珍しいことに楽譜だけが彫りこまれていてではないか。しばらく私はじっと見とれた。それは古くて昔なつかしい、あの小学唱歌の「ふるさと」だった。

うさぎ追ひし かの山

小鮒(ぶな) つりしかの川

高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲とはつきり読みとれる。高野さんは長野県の出身だから、するとこの鳥取が岡野さんの故郷というわけだな、と思いついた。この二人のコンビは、ほかに「春の小川」や、「おぼろ月夜」などの、古い名歌の作者なのを私はおぼえていた。私はカメラにおさめてから、立ち去った。

三のめす

松野洪野

現在は物で栄えて心で減ぶと言われて久しくなりました。またその様な言葉すら死語となつてしまふ程、めまぐるしく世の中は変化しています。衣・食・住すべてにわたり、伝統がくずれ、あらゆる面で洋式化がなされてしまひました。

まず食については和食が若い人に好まれません。特に精進料理などは、どうも口に合わないようです。またおふくろの味と伝えられた料理はなかなか姿を見せず、それに変わって「お」がとれ、袋の味とまで茶化されてしまった食生活になっているのではないでしようか。一つ一つの素材をくさずず本来持っているものの味を引き出すこと、これが和食の心でしよう。しかしそれには手間・暇をかけて、たまにはその手間・暇をかけて、良い味、良い料理を作りたいものです。海の幸、山の幸に恵まれたこの瀬戸内で、本来私達の身辺にあるものをいかに上手くそのもの

「ふるさと」という、やさしい語感!。そうなのだ。心にふるさとを持つ者はあわせである。なせなら、それは心のよりどころになる。だが「ふるさと」は遠くにあると思うもの」と悲しく歌った有名な詩人の例もある。その土地で生まれた人だけの独占物であつてはならない。もっと広い意識で考えるなら、ふるさととは人間いたるころにありたいものである。

昔の子 今の子

地御前保育所

平山真寿美

今日、社会情勢の変化は、人間関係を希薄にし、子ども達の育ちにも影響し問題視されています。昔は、兄弟も多く、兄弟げんかをしたり、近所の子どもと夕方暗くなるまで年長者の子どもについて遊びながら社会性を身につけて、がまんする心、心の痛みのわかる子に育っていました。今は一人っ子、二人っ子が多く、又ファミコンやテレビの普及で友だちと遊べない子、遊び方のわからない子

新しい土地に移って、そこに住みつき、その環境にとけこんで連帯的な人間関係の中で生きつづけることができるなら、その土地がらに人間本来の愛着心をおぼえるだろう。そして、そこが自然に第二、第三の自分のふるさとでありたいものである。この素直な感情によって、私たちみんなのコミュニケーション(共同社会)はより良く成長する。

など人とかかわり方がわからないう子が増えています。保育園でもやはり同じ現象が見られます。そこで保育園では、友だちやま



が、あまりかたよりますとゆとりがなくなってしまう。心のゆとりは衣・食・住の中から、自ら

やわつこ田

木本文三

地御前コ推協青少年部会より青少年育成廿日市市民会議のお世話をして頂きまして五年半が経ちました。市民会議では各地域からデーターが送られて来ます、その中で平成二年四月地御前地区に新しく中学校が開校されました。

新しい学校が設立されると二校三校の学区により新学期を迎える事となります。教師、保護者の皆様方はいつも子供達が地域をこえた話合い学び合いを願っておりますが、生徒にとりましては自分達が主人公となりますので戸惑いも多いと思います。

これから大きく育つ全盛期で有ります。多少のぶつかりはやむをえません。「人は論ぜずしては成功なし」といわれます。PTAも会長さんを中心に早くから熱心に取組み生徒達に優しく心を配っ

わりの人達、自分を大切にできる子どもにと考え、地域の方たちとの交流の場を多く持つ様に色々な行事を計画し、御協力を頂いています。五月には、民生委員の梶上さん、宮本さん、町内会連絡協議会々長の吉本さんにお願ひをして昔から踊りつがれているみみくり踊りを、太鼓や三味線で雰囲気盛り上げて頂いて練習をし、小運動会、夏まつりには、御家族や近所の人達と一緒に楽しいひとときをすごしました。又永福学級の方方、子どものおじいちゃん、おばあちゃん方とも、八月の暑い日に園庭の草とりをしたり、そうめん流しや誕生会などで、昔からの遊び(お手玉、あやとり)を教えて頂いたり、ブンブンごまや竹とんぼ、竹ぼっくり、うさぎ小屋を作った。地域の人達やお年寄りの人達、子ども同士の交流を持つことによって心のあたかい、生命を大切にする思いやりのあるやさしい「ちごせんっ子」に育てたいと思っています。

皆様いつでも保育園に遊びにおいで下さい。子ども達も職員もお待ちしております。

作り出してゆくものです。日本の伝統の中にそれをもう一度みなおしてみませんか。

ておられることに敬意を表します。「ふれあい」「私達は他人の子も皆我が子」の気持で接しておりますが、時代の急速な移り変わりに追いつくのが一生懸命ですが答を教えて呉れるのは子供達です。パトロールの時子供達が話し合っている所によく出合います。其中で話を聞くチャンスがあります。はじめ洪い顔の子供も返す言葉に笑顔で答える様になると、心のふれあいを感じパトロールの苦勞も忘れる思ひです。

国道二号線田屋南の元レストランの裏側防波堤の行止りには最近シンナーの入った、新しいビニール袋が数多く捨てられています。廿日市警察署の防犯課も重点地区としてパトロールを続けていますが、十二月に入れば子供達の心もさまたまでしょう。地域の方々も何かに触れて、不審に気がかれることがあると思います。これから廿一世紀を担う子供達のために愛のパトロールに協力をお願いいたします。

婦人会が 女性会になりました

女性会会長 山崎恵子

婦人という呼び名は一定年令以上の狭い範囲の女性を指すイメージが強いということ、女偏に等「ほうき」と書く「婦人」は、家庭にいる人と言う固定したイメージにもつながるという理由で、昨年、県の方で広島県地域女性団体連絡協議会と改称したのを受けて、廿日市市でも今年度から廿日市市女性団体連絡協議会と名称変更しました。

連絡協議会に入っている地御前でも女性会と名称変更になりました。

戦後まもなく結成された婦人会の名のもとで先輩のかたがたが活躍なさいましたのを、今年度から変更しますのは大変残念で心苦しい気がするのですが、これも時代のながれなのでしょう。

地御前女性会はPTAの会員のかたや、老人クラブのかたも多数参加していただいて、市内の女性会から幅広い層を集結しているとうらやましがられております

これから高令化社会にむかって私達に何が出来るか模索しながら、より地域に根をおろし活動していきたいと思っております。

年間会費三百円を出していただきましたらどなたでも会員になります。高令者のかたがたや、独り暮らしのかたがたと成人病予防の食生活改善の運動もかねて交流会をしたりと、今年度もさまざまな行事を計画しております。

地域に班がない場合は本部へ直接入会していただくこともできます。まだ会員でない方はこの機会にぜひ入会され地域の人たちと一緒に活動しませんか、皆様のご入会を心からお待ちしております。

難民への衣料

有難うございました

六月二日、三日、難民への衣料の提供をお願いしましたところ、多数の方々のご協力をえまして、お陰様で軽トラック四台ぶんが集まりました。佐方のスーパーふじおかまではこび、さっそく佐方商店会から大阪市の日本救援衣料センターへ届けられたようです

心の通う

温かい福祉社会に

〇 高令者社会に対応

高令者社会に突入している現在、痴ほう症の増加の傾向は大きな社会問題となりつ、ある。

障害が重いから寝たきりや、痴ほうになるのではない。孤独が寝たきりや、痴ほうを生む。仲間づくりが痴ほうを防ぐので仲間づくりが必要である。

なくては七癖と昔から言われている、欠点のない人はないと思う。癖には善・悪の二面がある、悪い面をさすことが多い。

友達のよい「くせ」を探そう、優れたところをみつめよう。欠点は自然にわかるが、優れたところをみつめることはむづかしい。考えることは頭の体操であり、脳を使うことによって老化を防ぎ、友を敬う心が自然とわき、心の通う温かさが生れる。

ひとり暮らしの方の昼食会（民生委員・女性会共催）

世代間交流会（永福学級・女性

公民館までもってきていただきました皆様の善意の気持ちで、困っている世界の国々の人たちに一日も早く届くよう祈りたいと思います。たいへん有難うございました。これからも機会がありましたら、よびかけたいと思いますのでその節はよろしくご協力をおねがい申しあげます。

公民館俳句クラブ

詠草

紫陽花の変化に遅速ありにけり
丹良本 香豆
安静の刻深沈と遠蛙
佐伯 好技

司どる囲の大きかり女郎蜘蛛
吉田 春
梅雨深しひびく一管能楽堂
藪野 道

一人居に茄子漬の紺深かりし
天野 澄子
ほぐれつつ光彩はなつ水中花
森岡 あかね

時の日をゆるがせにせぬ花時計
常吉 ぬい
見あきては置替へもして水中花
坂本 朝

水中花つぶやきに似し泡もらす
繩本 満里子

コ推協会長 伏本節夫

会共催）等を実施している。

〇 ボランティア活動

孤独では暮しにくい、世間からなんらかのお世話になっている。

高令者になればなる程、お世話になりっぱなしになる。世話できる時期をみつめ、自分の能力の限度間で奉仕することが大切である。

憲法で保障されている自由の権利とか、一人前に税金を納めているとか、それ相当の理由はあると思います。憲法12条に「国民に保障する自由および権利は国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。不断の努力こそ必要を明記されている。」

私達コ推協は、六専門部の諸行事を通して、地域住民の親睦と連帯を強化し、互助の精神の涵養に14年間努力をつづけた。

日本赤十字奉仕団ハンドブックによれば、ボランティア活動とは、すべての人びとが、明るく、健康で、人間らしく、しあわせに生活

水中花夜の孤独に耐えてゐ
松野 寿々
水替へてもらひたそうな水中花
黒橋 寿美
受付の色のあせたる水中花
村上 喜久恵
ライバルにして緑蔭を分かちあひ
山崎 久
風音に風欲しらしき水中花
石井 青歩

編集後記

「じこぜんひろば」本年度の初版をお届けします。

英語の「コミュニケーション」舌をかみそうな言葉ですが、要は地域の行事・集りのなかで話題を提供し合いふれあいの場をもつという意味と解釈されてよいと思います。いにしへの文化と伝統に支えられてきた地御前、老若男女を問わず、この地域を育てていきたいものです。

「じこぜんひろば」は地域に密着した唯一の広報紙です。幸いなことに、各町内会長さんを中心としたスタッフを揃えて今年度も編集して参ります。よろしくお願いたします。

できるように「ともに生きるために必要な活動である。活動の根底に流れているものは、みんなのしあわせを願う「人間愛」であり、ボランティア活動とは「人間愛に基づく活動である」

〇 専門部員への心配り

或る経済界の方の東京出張の土産話の中で「じようろがい」の話があった。売春禁止法が実施されて久しい今日「じようろがい」の言葉は聞く、自分の耳を疑う？、漢字で書くと「女・老・外」。人手不足のため女性・老人・外国人の雇用が急増している。当広島地方でも人手不足の現況である。アルバイト学生の賃金があがり企業は困っていると新聞は報じている。

こんな状況でのボランティア（無料奉仕）活動をご理解いただき専門部員への心の支援、はげましの言葉を賜わりたく思います。増々親睦を深め、連帯性を高めるものと確信します。

〇 結び

地御前には、長い歴史と伝統があり、豊かな自然に恵まれた所。心の通う。温かい福祉社会にと念願します。

じこぜんひろば



№.36
発行 平成 3・7・20
地御前コミュニティ
推進協議会

人間愛で心のかようまちづくり

平成三年度

コ推協事業計画と各部員の紹介

◎広報部

7月 じこぜんひろば 36
3月 じこぜんひろば 37

※増頁で年二回発行とする

◎中谷満・奥野保・加島亨

板垣公朝・林 武二・渡辺千敏

掛本尚司・福永和雄

◎文化部

6月16日 御陵衣祭(流鏑馬神事)
7月26日 管絃祭前日 洲堀神事

(管絃祭7月28日)

8月15日 盆踊り

10月13日 氏神社秋祭・各諸行事

11月3日 郷土歴史の散歩

(歩こうや)

1月12日 とんど祭

年二回子供との故郷づくり

◎吉本 武○北川徳夫・北野正之

北野正喜・勝谷義昭・世良忠昭

谷口 勇・増村春男・松野真哉

佐神真佐男・新川 弘・川本 明

岩本法紀・磯辺忠利

◎福祉部

9月15日 敬老会(生花)

10月 老人招待昼食会

10月、12月、2月年三回
(ねたきり一人暮らし)

12月 福祉団体訪問(寸志)

※二年度は昼食会材料の寄付
がありました。

◎宮本忠夫○梶上清三・岡田義雄

掛本常子・勝谷武夫・北山秋義

柳川 練・友田健次・益田 明

国岡輝久・村上津津子・鈴木新語

高橋宜昭

◎生活部

7月 高令者との交流会年三回

福祉部と合同行事

◎石川孝幸○大原淑子・田島久美子

木村 満・工 正一・綱谷 豊

江盛正洋・美川順子・吉盛不染

佃 正隆・瀬川 勝・井上喜良

益井 勇・坂本春男

◎体育部

5月19日 地御前地区運動会

10月中旬 ハイキング

3月 グランドゴルフ七回目

◎林扶実夫○小方昌之・神本登志江

横山法幸 大倉 肇・河原範文

中山正次・美川 忍・小方正弘
花田重之・相良宏三・阿部信行
佐伯慎二・市川武志・藤本政男
川本裕治・木戸博美・井上勝美
河崎信行・石川明美・関ヶ浜弘江
北山昭美・永谷安紀子

◎青少年部

7月28日 管絃祭安全パトロール

10月13日 氏神社祭り

各種行事(ハナ等)の

交通安全対策

各種行事協力参加

◎大倉巧○懸 和男・梶村南海夫

友重 寿・木本丈三・西田弘展

出羽健三・若宮 悟・世良明真

川本 通・八崎真理子

◎印は部長 ○印は副部長

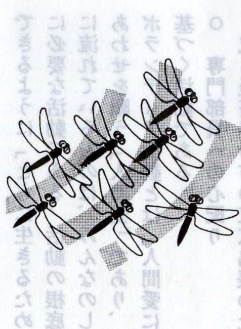
平成三年度

地御前地区

町内会長紹介

町内会長 会長氏名 世帯数
○旭町 出羽健三 三六
○扇園 吉盛不染 一七一
金剛寺東 花田重之 九一
○金剛寺西 益田 明 九八
要 町 鹿島 亨 五五
浜之町 吉本 武 六六

○砂島町 渡辺千敏 五九
○胡 町 若宮 悟 五四
後 町 川本 通 九七
○後町東 綱本 誠 二三
○北之町 北野正之 三一
○九子町 福永和雄 六六
○野 坂 市川武志 四九
○野坂住宅 坂本春男 四四
○緑ヶ丘 岩本典紀 一一九
○三景園 岡田義雄 一五〇
○海晴ヶ丘 友重 寿 一二七
中之町 瀬川 勝 二八
堀之町 中谷 満 四〇
堀新町 増村春男 五一
南 町 柳川 練 四八
鹿之子 松本 武 七五
田屋町 益井 勇 七九
新港町 井上喜良 一〇五
新港町 谷口 勇 四六
港 町 北山秋義 一一九
県営住宅 高橋宜義 五〇
○印は、新町内会長



流鏑馬神事復活十年

去る六月十六日の日曜日、地御前神社御陵衣祭(りょういさい)で流鏑馬(やぶさめ)神事を奉納いたしました。今年は日曜日とあって、境内には午前中からたくさんの子供たちが集り、屋台の店開きを今やおそしと待ちわびていました。祭りの始まる午後二時前になると境内があふれんばかりの賑わい、拝殿は、座る余地のないほどでした。その中にはお年寄りから伝え聞き、初節句の赤ちゃんと赤い鉢巻きを締めてお年寄りと一緒に添って訪れた、若いお母さんお父さんの姿も目立ち、復活当時より年々多くの人で賑わって来ているようです。赤ちゃんを抱きかかえた若い夫婦が神前に玉串拝礼する姿は、ひとときわ和やかさにあふれていました。

まず、社殿で厳島神社宮司らによつて旧暦五月五日の端午の節句の大祭である御陵衣祭の祭りが、執り行われました。地御前神社には、向かつて左に客殿、正面に本殿と二社あり」祭事の後には拝殿

年以上の伝統を誇っています。御陵衣祭に流鏑馬神事を奉納する謂われは、端午の節句に菖蒲と蓬を束ね軒にさして祝い、粽を供してこれを食することから「菖蒲の節句」とも言われ、勝負が尚武、尚武が菖蒲の字句の洒落によるものとされています。また、節句の終わりににはこの菖蒲を風呂に入れ薬風呂としたことから「薬味の節句」とも呼ばれています。

慶長初期、二代將軍秀忠の時代に広島藩主安芸守が持ち馬を奉納

馬に仕立て参拝し、初めての流鏑馬を行つて以来三百年の歴史を持ちながら、都市化の波で参道がアスファルト舗装され馬が走れなくなったことや農家からの奉納馬がいなくなったことで、昭和四十二年を最後に姿を消していました。しかし、地元住民の強い要請によつて昭和五十七年(十五年ぶり)復活することができ、はや十年とたったこの流鏑馬神事をいつまでも守り続けて行きたいものです。

流鏑馬神事奉讃会

コ推協文化部

せんでした。

公民館をみんなできれいに

公民館クラブ運営委員会発足(平成元年)以来、各クラブの皆様が交流とふれあいを深める事で始めました。館内清掃を、六月二十八日、蒸し暑い中で行いきれいになりました。

各クラブより一人づつ出て頂き日常使用する教室を主体に、一時間の予定で清掃し、その後、ジュースを飲みながら、話し合や、交流の時間とおもって下さいます。清掃の人員の配分が悪く、終了がおそくなった所があり、自己紹介や話し合も充分出来ま

クラブ運営委員長 増村

平成2年度・地御前コミュニティ推進協議会収支決算書

平成3年度地御前地区コ推協収支予算書

平成2年度地御前地区コ推協収支決算書

収 入 の 部 (単位 円)				
項 目	前年度予算額	収入済額	増減	本年度予算額
会 費	280,500	271,950		293,100
助成金	160,000	160,000		160,000
諸収入	100,000	100,000		100,000
一般寄付	10,500	65,631		10,500
預金利息	10,000	65,000		10,000
繰越金	500	631		500
繰越金	31,539	31,539		97,732
収 入 合 計	482,539	529,120		561,332

収 入 の 部 (単位 円)				
項 目	当初予算	補正予算	計	収入済額
会 費	280,500		280,500	279,450
助成金	160,000		160,000	160,000
諸収入	10,500		10,500	67,261
一般寄付	10,500		10,000	65,000
預金利息	500		500	2,261
繰越金	31,539		31,539	31,539
収 入 合 計	482,539		482,539	538,250

支 出 の 部 (単位 円)				
項 目	前年度予算額	前年度支出額	本年度予算額	説 明
運営費	40,000	38,578	70,000	諸会議
会議費	5,000	7,450	5,000	事務用品・用紙代
事務費	10,000	6,200	10,000	地域活動助成
地域活動費	15,000	5,000	15,000	青年会館保険料金外町料金
青年会館維持費			20,000	
雑 費	10,000	19,928	20,000	慶弔費外
事業費	435,000	401,940	480,000	
広報部	120,000	78,321	100,000	じごせんひろば、2発行
文化部	50,000	47,500	65,000	御陵衣祭・管弦祭州堀・とんど祭り
福祉部	80,000	94,073	90,000	盆踊り・秋祭・子供故郷づくり
体育部	150,000	148,802	180,000	老人招待並びに見舞い
生活部	20,000	21,744	30,000	福祉団体へ寸志
青少年部	15,000	11,500	15,000	運動会・ハイキング・グランドゴルフ外
予備費	7,500	0	11,332	高齢者との交流会(3回)
支出合計	482,539	440,518	561,332	管弦祭パトロール・秋祭交通整理 コ推行事協力参加外

支 出 の 部 (単位 円)				
項 目	当初予算	補正額	計	支出済額
運営費	40,000		43,000	38,578
会議費	5,000	3,000	8,000	7,450
事務費	10,000		10,000	6,200
雑 費	15,000	Δ 10,000	5,000	5,000
事業費	10,000	10,000	20,000	19,928
広報部	435,000		437,000	401,940
文化部	120,000	Δ 20,000	100,000	78,321
福祉部	50,000		50,000	47,500
体育部	80,000	20,000	100,000	94,073
生活部	150,000		150,000	148,802
予備費	20,000	2,000	22,000	21,744
予備費	15,000	Δ 5,000	10,000	11,500
支出合計	7,539		2,539	0

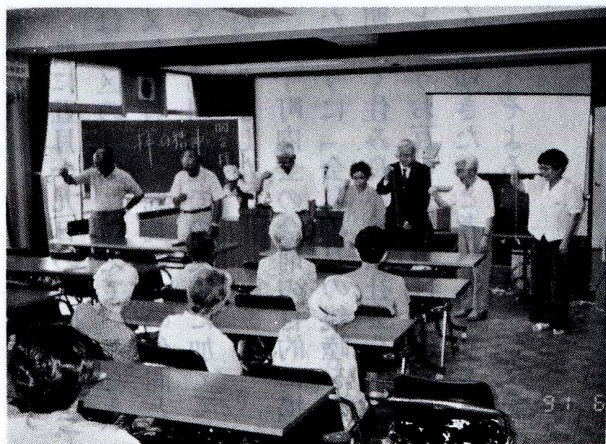
収入合計 538,250円
支出合計 440,518円
差引合計 97,732円 (平成3年度へ繰り越し)

生活部だより

生活部長 石川孝幸

六月六日、部会を公民館に於て開かれました。生活部では永らく部長として活躍されました木村満さんが体調がおもわしくないので退部されることになりました。会議、集会、その他の行事には卒先して参加され又熱心に部のお世話をしてくれました。木村さんが退部される事は残念でなりません。が病いでは仕方がございません。これから健康に留意され療養されます様お願い致します。永い間お世話下さいまして有難うございました。

一木村さんの後任に入部致しました三景園の石川です。生活部の事はあまり関心がありませんでした。このたび部の目的、活動方針を読み人が生活して行くためにはなくてはならない部であることを痛感しました。此の重要な部の部長を引受けたことを後悔しましたが副部長、部員の皆様にご支援していただけるので心強く思い皆様のご期待にそうように努力を致します。これから先皆様に度々お世話



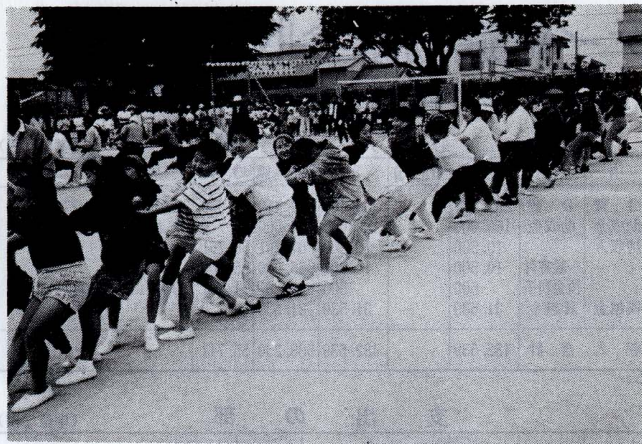
になります。其の節はよろしくご指導下さいます様お願い致します。

七月一日公民館二階で永福学級婦人学級、女性会、生活部の交流会をコ推協会長を迎えて開催致しました。当日は雨にもかかわらず沢山な方々が出席されました。会長の挨拶から始まり館長のユーモアを交じえた腹話術、折紙で鶴の折り方、千羽鶴の由来の説明などあり大変賑やかに和気あいあいと交流、親睦を深める事が出来ました。お世話をさせて頂きました事務局の方々又早くから弁当を準備して下さいました女性会の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成三年度運動会

盛大に行う

第十三回地御前地区市民大運動会が小学校グラウンドに於て開催されましたが、入場行進の時から多数の皆様が参加され盛り上がり、一番のダルマ運びの競技から始まり各地区の応援（チアガール）の共演、むかで競争、綱引き、年代別リレーと、どの競技も一生懸命楽しく最後まで頑張っていたり、皆様に観客席からは盛大な拍手そして励ましの声が飛んでいるう



ちに全競技を終了致しましたが、当日約二、五〇〇人位の方々がグラウンドに集まって競技が進行される中でコミュニケーションが出来た事は競技に参加された皆様応援された皆様そして色々と人集めに尽力いただきました町内会子供会の役員さんのおかげだと感謝しています。ここで紙面をかりて皆様に心からお礼を申し上げます。本当に最後までお世話をして頂きましてありがとうございます。この運動会は毎年五月の第三日曜日に行うようにしていますのでどうか宜しくお願い致します。

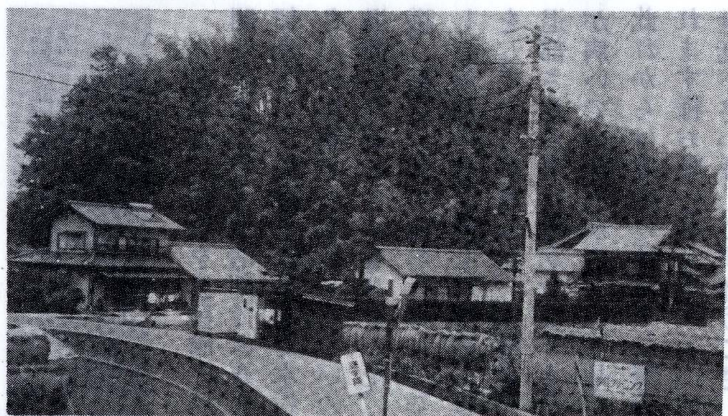
体育部々長 林

丸子町内会の紹介

丸子山を開発して造成された住宅地に建てられた住宅とマンションの入居者は、これまで堀中町町内会の一員として御世話になっていました。

平成三年一月十九日（土）に、中谷堀之町町内会長、増村堀中町町内会長の御世話で、新しい町内会の発足準備会を開き、二月二

日（土）に設立総会を開いて準備が整い、四月一日から、地御前地区の「丸子町内会」として、五班五十四名の会員で正式に発足しました。（現在は六班六十六名となっています）。この重要な一歩を踏み出した。子供会も同時に発足し、共に協力しあって活動することになりました。縁あってこの地に居住することとなりましたので、地御前地区の一員として、一日も早く地域社会に融け込んでゆきたいと願っています。



開発まえの丸子山

ます。既に五月十九日の地区運動会では2区の仲間に加えていただき、又年配者は、堀長寿会の仲間として、鳴川山荘での交流に加えていただきます。

丸子町内会の会則の目的に掲げたように「会員相互の親睦を深め明るく住み良い地域社会を作る」というお互い共通の目的に取り組んでゆきたいと考えて居ります。どうぞよろしく願います。



現在の丸子町

「ボケと性格」

仁愛内科医院

今川 智香子

寒い時期は葬式が多い。其の度に、自分も心臓が悪いのではないかと、癌じゃなろうか、風呂に入っている時に脳の血管が切れはしないか、等等、心配になって病院にかけこむ。検査の結果「異常なし」と出ればホッと胸をなでおろす。皆さんも一度や二度は経験がおありの事と思います。でも、せっかくな心臓も元氣印、癌も無しと出ても、長寿国世界一の日本人にとって、もう一つ「ボケ」老年痴呆」という大きな心配があります。現在六五才以上の人口の四一五%に老人痴呆があるといわれますが、寿命が長くなればもっと増えるでしょう。

痴呆には「脳血管性痴呆」と「アルツハイマー型痴呆」があり、脳血管性痴呆は脳動脈硬化が原因で、高血圧症、糖尿病、高コレステロール血症などがあるとなりやすい。アルツハイマー型痴呆は脳全体が萎縮して、脳の神経細胞が死んでしまう事によって起こり、

其の原因はまだはっきりつかめておらず、ある種の蛋白質だらうとか、遺伝子の異常ではないだらうとか等言われています。こうなると高血圧や糖尿病など持病のある人は不安になるし、アルツハイマー型のように遺伝子の問題などといわれると健康な人も安心はできない。しかし脳に同じ様な病変があっても、同じ様にボケるとは限らないのです。……そこで注目されるのが、その人の性格。色々なアンケート調査で痴呆になりやすい性格というのは、内閉型（あそびが、閉鎖的、無口、社交的でない、人にとけこまない）や、感情型（気性が激しい、感情的、かんしゃくもち、短気、わがまま）の性格の人が多く、正常な人には同調型（社交的、積極的、明るい、行動的、解放的）や、執着型（強い、責任感が強い、義理がたい、がんばりや）の性格の人が多くと云われます。コミニシャルで有名になった「きんさん、ぎんさん」（一〇〇才の双子）を見ればなるほどとうなずけるものがありますね。同じ様な病気や生活環境に遭遇しても、ボケやすい人とそうでない人があると云うのです。

ボケたくないと言う願いは、ほとんどの人の願いです。皆さんも今からでも遅くない。自分の性格に思い当たる節があれば、自己改革してみませんか。

「地御前公民館」

俳句クラブ

詠草

村上きくえ
どかと座す布袋の笑まひ暖かし
常吉 ぬい
野梅咲き窯元の煙見えてきし
黒橋 寿美
探梅の島へわたりの舟にあり
山崎 久
散らかるをくつろぎとせる
炬燵の間
佐伯 好枝
御正忌の庫裡ひっそりと
留守居猫
丹良本香豆
初度の泊り関門橋のぞみ
越智あきら
憂きことを去年に打ち捨て
日の出見
藪野 道
石庭に鐘の余韻や大旦

編集後記

古きよき時代は去って、いまや世界はダイナミックな変わりようである。
その渦中にあってもコミニティというふれあいの温もりは息づいている。
先般、地御前コミュニティ推進協議会の活動に対して県から表彰をいただいた。地道な活動の賜である。じごぜんひろばも発行回数がなく微々たるおつき合いであるが、紙面のなかで少しでも地域の話題に興味を持っていただければ幸いである。

吉田 春
遠山を墨絵ばかにし雪野昏れ
縄本 真理
老いの手に見ゆいとしまや
針供養
坂本 朝
風花に頬をぬらして野辺送り
天野 澄子
わだかまりほのと抜けゆく
温め酒
石井 青歩
夕鶴の帰ると鎌をおさめたる

新春を迎えて

廿日市市長 山下三郎



勃発など国際情勢の変化は我が国の政治経済に大きく影響を与えており、市民の日常生活にも波及しています。

国内においては、依然活発な活動が続く雲仙普賢岳の火山噴火、経済社会面を賑わした証券・金融不祥事の発生など、また、好調を誇った経済成長の減速に伴う国税などの収入落ち込みによる地方財政への影響が憂慮されています。しかしながら、市政運営は長期的視点に立ち、市民の幸せのため積極的な行政運営を行います。

現在、二十一世紀に向かって都市環境の整備を押し進めており、本市は広島都市圏の西部拠点都市としてその役割がますます重要になっています。

より一層快適な都市環境づくりを目標に都市の基盤整備をはじめ産業の活性化、市民福祉の増進、教育・文化の向上など廿日市のまちづくりに邁進したいと存じます。

勿論、本市地御前地区の生活環境や社会教育施設の整備など地域の発展につきましても、その実現に努力いたします。今後とも、市民の皆様の新鮮な発想と地域を愛するエネルギー、そして市民の連帯意識のもとに、市民に開かれた市政を展開いたしまして、地域の創生を図りつつ、廿日市らしい都市文化の形成に努める所存であります。

申すまでもなく、このような諸事業の早期の完遂には地域の皆様並びに市民の皆様の市政に対する信頼と合意が大前提であります。市民の皆様のご期待に応えるため、市民本位の市政の推進に努めますので市民の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、地御前地区の市民の皆様には、地域の創生すなわち地域のコミュニティ活動を長年実践されていますその活動に對し心から敬意を表しますとともに、これからの活動にもご期待いたすものであります。

地御前地区の市民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

じごぜんひろば



№. 37

発行 平成 4. 3. 20

地御前コミュニティ
推進協議会

まちづくり より合う心 貸す力

美濃川中 委員会 美濃川中 委員会 美濃川中 委員会 美濃川中 委員会 美濃川中 委員会

新年あけましておめでとうございます。
地御前地区の市民の皆様にはよいお年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
昨年十一月、第二代の廿日市市長に就任して初めての新春を迎え、その職責の重大さを改めて痛感しているところでございます。
さて、大きく内外の情勢を見ると昨年は信じられないような激動の一年でありました。東西冷戦の終結、ソ連邦の解体、湾岸戦争をはじめとする新たな地域間紛争の

A black and white portrait of a middle-aged man with short, dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a light, textured surface.A black and white portrait of a man with glasses, wearing a dark suit, white shirt, and a patterned tie. He is standing in front of a building with a lattice-like structure.A black and white portrait of a man in a military uniform, standing outdoors. He is wearing a light-colored, short-sleeved button-down shirt with a dark collar and a dark tie. He has short, dark hair and is looking directly at the camera. The background is a blurred outdoor setting with trees and foliage.

三代会長 伏本節夫

受賞の*****

お祝いと思い出

元コ推協事務局長

江草 悟平

皆さん、コ推協の団体表彰おめでとうございます。昭和五十二年



四月に、社会福祉を基本ベースとして指定を受け、地域を挙げての実践活動が、名誉ある県知事表彰になりました。

当時の世相は、「秋深し 隣は何をする人ぞ」の個人主義が横行した時代でした。

時の宮沢知事より、県下で六地区の一つとして指定を受け、他地区に類を見ない独特の構想と組織が、地区民の協力のもとに立案されました。

それは実践母体として発足した「コ推協」の組織化であります。

この会は指定を受けた年の六月には発足し、会則も事業内容、予算、役員等も、県及町、地区住民の多数出席のもとに決定されました。予算も県より二〇万円、町より同額の二〇万円の助成があり、一戸当り百円の会費と共に約六〇万円余の予算でありました。

役員には、会長に中川辰美氏（連合町内会長）副会長に小方一郎氏（故人、老人クラブ会長）村上弥津子氏（婦人会長）の各氏が選出されました。

事業部会は現在の六部会で、町内会長、各種団体代表者等が、部長を担当され、地域の実態、史蹟、環境に即した事業が展開されました。

五月ご陵衣の「馬とばし」が復活したり、史蹟旧跡を皆さんで尋ねて、見聞と連帯を広めたり、或いは児童福祉施設を訪問して協力と交流を重ねる等、部活動が活発に展開されました。

特に春の地区民運動会には、東西南北の対抗で熱気を帯び、現在に至っています。その他、あいさつ運動や時間励行等も、日常活動として積み重ねてきました。事業を展開する上で、いつも地

区の問題点や狭路を念頭に置き討議されましたが、総括的にみて当時の問題点とされた事は、

- ① 電車停留所と自転車の置き場所
 - ② 青年会の組織化と青年活動
 - ③ 公民館の役割と位置づけ
- 等であったと思います。

尚①の件は、其の後関係者のご盡力で、現在のように立派に解決されました。

②は指定後、二年目の八月に、知事が青年会結成総会に出席され、対話集会が持たれ、その甲斐あってか、県及町の経費で青年の手によって、会館が建築され十月一日には竣工式が挙げられました。会長は懸和男氏でした。

③公民館は「地域に開かれた活動」が提唱され、社会教育は勿論、他の分野にも積極的にタッチすることになり「集まる、学ぶ、結ぶ」が最初のスローガンにも帰一することと解決したと思います。

終りになりましたが、今回の受賞は長年にわたる、団体活動の実践が認められたもので、地区民皆さんの荣誉であり誇りであります。地御前は住みよい、所だと誰もが思うように、伏本会長を中心にコ推協を盛り上げ、受賞をバネ

にして今後の益々の発展を心から念じ期待しています。

受賞おめでとうございます

公民館主事 藤田 真弘

わたくしごとですが地御前公民館に勤めて二年が過ぎようとしています。最初に地御前公民館に着任したとき、地御前地区のみなさんの「まちづくり」にかける意気込みに圧倒される思いでした。まちづくりの中心になる組織にコミュニティ推進協議会が大きな役割を担っており、福祉・青少年・生活・体育・文化・広報の六部のそれぞれが積極的に活動されているのに驚きました。都市化・核家族化するにつれて地域活動が衰退・停滞して行く地域があるのに比べ、地御前地区は新旧の住民の方の融和が比較的スムーズにいき、地域での文化の伝承活動・助け合い・ふれあいの場がしっかりされていると思います。

コミュニティ活動の十五年目の節目のとき、県から表彰されたのもこのようなことが評価されたものと思います。最後に、皆様おめでとうございます。

女性会に参加して

有川 佐和子

地御前、何と素敵な地名でしょう。約三十年前、縁あって当地に住み始めた頃、知人一人無く、毎日、ラジオを聞き乍ら、レース編みばかりしていました。

急に降り始めた夕暮、傘を持って出迎えた電停で、雨に濡れて光るレールを見ながら、この線路を伝って里に帰りたいと涙した事も今年、御正月に里に帰り「あれ程里恋しかったのに今は地御前の方が良い」と云わしめた現実。

家の中ばかりだったのに、女性会に入り数多くの人に出逢え、共に行動し（地区運動会、敬老会のお手伝い、公民館バザー、生活改善『成人予防と食生活』独り暮らしの人の交流会等々）少しは地域に溶け込めたように思います。

岡山県に研修の折、日露戦争に出兵した「死んでもラッパを離さなかった木口小平」の生家をバスより見、こんな山深い所から後世に名の残る人材が出た事、人間の素晴らしさ、いたく感慨深いものがありました。私自身、この世に生を受けた事どんなに有難い事か

と感謝せずにはおられません。

廃油からの石鹼作り（毎月末）

家庭排水浄化に努め、資源のリサイクルに心をくばり、よりよい地域にしたいものです。

身の丈にあった生活を信条とし微力ながら心から参加して行く心算です。

地御前大好き、暖かい町、やさしい町。

地域で育てよう

地御前つ子

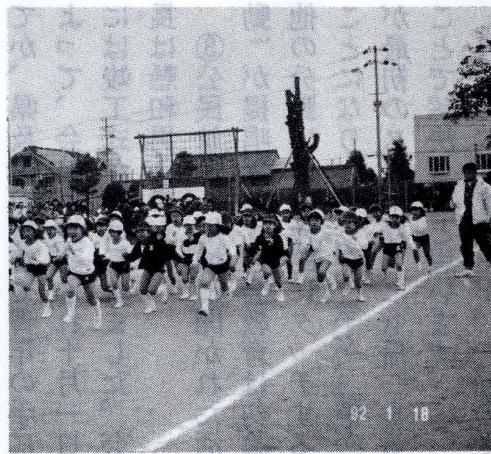
地御前小学校PTA会長

八崎 真理子

地御前小学校で挨拶を心掛ける様言われ始めてずい分たちます。

『おはよう。』と声を掛けると、恥ずかしそうにうつ向く子『おはようございます。』と返す子、ニヤッと笑って走ってゆく子と種々です。うつ向くのも、笑うのも挨拶のうちかな？と思うつつ、地域の皆様もそう思ったださるか心配です。『近頃の子は挨拶も出来ん。』と言われる前にどうぞ子供達に気軽に声を掛けてやって下さい。そんな風に子供達は地域に育てられるのだと思うのです。学校帰りの子に

『おかえり。』と言うと『ただいま。』と返す子が何人もいます。うれしいものです。これは地域の中で確実に育っている証だと思うのです。どうぞ、優しく見守ってやって下さい。来年度から、学校五日制が



導入されようとしております。実施されますと、当然の様に、土曜日にあちこち走り回る子供達が増える訳です。親が働いていたりして、目の行き届かない事も多くなるでしょう。『あの子もこの子も地御前の子。』です。いけない事はいけないと注意し、ほめてもやりたいと思います。時折、スーパー道端で、煙草を吸っている高校生などを見掛けます。すねた様な態度で、大人など眼中に無い様に吸っています。以前吸っている子に

注意した事があります。注意する

事の良し悪しも言われますが、知らん顔をしたら認める事になる様で大人としての責任を感じました。そして、私の子にもそうやって注意して欲しかったのです。気にしてもらっているという愛情をいっぱい知っている地御前子育てたいと思っております。どうぞ皆様の御力をお貸しく下さいませ。

私から見た地御前

中の町 KANN

はやいもので、地御前に来て三年になろうとしています。三年前初めて地御前に来たとき、古くて静かな町並に魅力を感じました。

加えて初めて会う人でも皆さん笑顔で話しかけて下さり本当に良い所へ来たと思えました。

地御前は古い行事がたくさん残っていて、私は特に管絃祭や、やぶさが好きです。宮島にも近く本当に良い所です。これから子供達（英語教室）を通じて地御前の方々と交流を深めたいと思っています。

最後に五月の町民運動会ではまた優勝したいです。

漢方薬について

本田 公和

明治維新の後西欧文明の流入と共に欧米の医学が主流となり従来から日本に伝わっていた漢方医学は殆んど忘れ去られた様な状態でしたが、十数年前漢方薬が保険診療に採用されてから急速に普及発展してきました。その上漢方治療は煎じ薬による治療が主でしたがエキス剤が出来て飲み易くなり保存にも便利で益々増加しております。ただ現代医学は色々な最新の検査、器具を使って病名を決定しそれに従って薬を処方しますが漢方は数千年も前の治療法を受け継いでいるため体の強弱や症状によって薬を決めます。器具機械の無い時代に発達した漢方は随証治療であり全身の異常を大局的に見て全体のバランスを調整して病状の改善をはかるといった考え方をしております。とくに老年になると免疫機能が低下していきます。即ち風邪にかかり易くなり肺炎になるなど抵抗力がおとろえてきますが漢方薬はその抵抗力を補い体力を

つけるのに非常に良い薬です。又お年寄り是一人で沢山の病氣を持つ様になります。神経痛、高血圧、糖尿病など四つも五つも病名がつかます。したがって西洋薬を服用する場合の数が多くなりますが漢方薬は一種類で色々な薬効を持っていますので薬の数が少なくて済みます。或は又慢性の病氣が多いので薬を長期に飲み続けることが必要ですがその点副作用の少ない漢方が有利な場合が多々あります。西洋薬も漢方薬も夫々良い面悪い面を持っていますがある種の漢

入会のご挨拶

三景園長寿会々々長

石川 孝章

梅雨の候となりましたが地御前長寿連合会々員の皆様にはご健勝の事とおよろこび申し上げます。

一老人会の力では行政に働きかけることや、何か事業を行うにも無力に等しいことなので、それぞれの町内老人会が団結して何事にもあたることの重大さを感じておりましたところ、地御前長寿連合

会を結成の運びとなったので加入され一緒に仲よくやって行こうではないかとお誘いを事務局よりうけました。会則等を拝見致しましたところ目的が私達が常日頃願っておりまして同じ主旨なので連合会の活躍に期待して入会いたしました。入会の際は会長をはじめ事務局の方々に何かとお世話になり有り難うございました。



編集後記

まんねり化する編集をなんとかしようとかん張って見ますがそのからを抜ける事が出来ません。今回は、学校五日制や福祉に、重点を置きました。地御前も新しい公民館が近く着工の運びとなります。昔前の地御前とは様子が変わりました。新しく明るく住みよい街づくりに、皆さんがアイデアを出し合って一層努力して行かなければなりません。すすんだ住民の意見をお寄せ下さい。少しでも役立つ広報紙にしたいと思ひます。御投稿をお待ちしています。

週休五日制実施への協力

伏本 節夫

好家による野坂中学校での柔道クラブ、地御前小学校教師によるサッカー教室等、伝統ある諸活動がある。ご指導される方々に紙上を借りて厚くお礼申しあげたい。

学校五日制の導入は子供の生活リズムにゆとりを与え、より豊かな生活体験、活動体験を提供する契機となるようお願いしたい。

家庭の教育機能の発揮、地域の



教育力の充実について考えてみよう。家庭では、きょうだい間での切磋琢磨、家事の手伝、生活体験等。地域では、異年令の仲間など子供同士の遊びや多様な地域活動、自然との触れ合い、青少年団体の活動への参加、文化・奉仕活動、スポーツ・レクリエーション。過度の学習塾通いの抑制も必要である。以上の事項が家庭・地域で考えられる点ではないかと思う。我々として注意しなければならないことは、相手の立場を考慮する必要がある。学校は学校で、PTAはPTAで、主体制がある。好まれる協力、援助でなければならぬ、善意の押売であってはならぬ。地域では子供会との連携を一層強めることが大切である。学校・子供会が地域の人々の特色を上手に使うことである。小学校では運動会に地御前踊が実施されている。盆踊等の伝統芸能など地域固有の文化的行事に参加を通じて地域の個性豊かな文化にふれあうことは、学校当局、郷土文化保存会の方々のすばらしい功績と思ひ敬意を拂いたい。

じとせんひろば



№. 38
発行 平成 4. 7. 10
地御前コミュニティ
推進協議会

若い芽をのばしてつくる明るい郷土

「推協」

各部の事業計画

◎基本方針

住民相互の連帯を図り心の触れ合う明るい住みよい共同社会の建設を目指しながら、生きがいを創造し、潤いと活力ある地域作りを推進する。地域住民が古くからある郷土愛と奉仕の精神をふくんで各種団体との連帯を密にしながらかし新しいコミュニティづくりを推進する。

各専門部の事業計画

◎広報部

「じこせんひろば」を年一回発行。コミュニティ活動を広く紹介する、変わり行く地域を紹介し歴史のページにしたい。

現代の提言及び「推協」活動の啓発。

◎体育部

地域住民の体力作りを盛り上げると共に触れ合いの和を広げる地区運動会を開催し、子供から高齢者まで一同に会し体力増進と仲間作りの場とする。

◎文化部

御稜衣祭、管絃祭、お州ほり、秋祭りの諸行事、盆踊り大会、とんど祭りなど古くから伝わる文化的諸行事を再現し、盛り上げ、子供たちの故郷作りと併せて仲間作りと触れ合いの場を作る。

◎福祉部

一人暮らし、ねたきり老人への訪問見舞、敬老会及び福祉施設への援助、協賛、地域ぐるみ在宅福祉の実践推進。

◎生活部

地域住民の積極的な奉仕活動により、よりよい環境作りを進め快適な地域作り推進する。

公民館永福字級、諸活動を支援し住みよい町作りをめざし、ボランティア活動の先駆けを作りその輪をひろげる。

◎青少年部

青少年の健全育成活動を推進する、地域社会の中で青少年をとりまく社会環境の浄化を図り、夏休みや、管絃祭、秋祭などの諸行事のときの非行防止に対する気運をより上げるための啓発活動をする、通学路などの清掃活動を実施する。

地御前地区

町内会長の紹介

町内会名	会長氏名	世帯数
旭町	出羽健三	三六
扇園	森岡弘	一六七
金剛寺東	花田重之	一〇〇
金剛寺西	益田明	一〇〇
要町	北川薫	五二
浜之町	吉本武	六六
砂島町	渡辺千敏	六六
胡町	若宮悟	五三
後町	松本末人	一二二
北之町	北野正之	二九
丸子町	福永和雄	六八
野坂	市川武士	五〇
野坂住宅	坂本春男	四六
緑ヶ丘	大久保孝美	一一七
三景園	岡田義雄	一五五
海晴ヶ丘	友重寿	一三〇
中之町	瀬川勝	二七
堀之町	北野茂	四二
堀中町	増村春男	四三
堀新町	柳川謙	五〇
南町	松本武	七五
鹿之子	増井嗣雄	七九
田屋町	井上喜良	一一〇

◎新港町

佐野治夫	四六
北山秋義	一一九
高橋宜昭	四九
福島達徳	一四

◎印新町内会長

子供会役員紹介

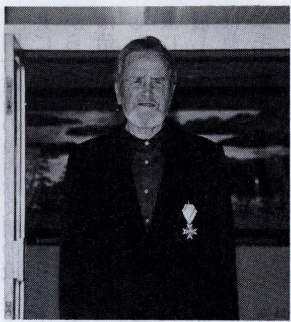
鹿の子	川本美奈子
南	坂野ゆみ
堀	秋吉和枝
丸子	松下千鶴
海晴ヶ丘	明比正子
浜・要	能野佳子
砂島	掛本博子
中・北	宮加谷靖子
野坂一区	清水律子
後・胡・東	坂井礼子
港	村井妙子
野坂二・三区	渡部秀美
三景園	手島ヨシ子
扇園	塚迫たか子
田屋	青木偉久子
港	中尾くみ子
新港	石中恵
金剛寺東	横山まゆみ
金剛寺西	北野由起子
	野上佳子
	坂本悦子

叙勲にあたり

思うこと

長井 一誠

刑務所の教戒師として長年つとめたので、この度勲章をいただきました。有難いと思っています。受刑者に面会し、その話を聞いていると、幼い時父母が亡くなったりと、人の愛情に薄く、学問や技術の教育も足りなかった人が多いです。又、繰返し過ちを犯した大人は、一度改心しても、度々自分の弱さに負けてしまい勝ちです。



だから訪問している施設の中では少年院、鑑別所が大切だと思っています。

人間には基本的な法、自然法とか、十戒とか呼ばれている掟があ

地御前「コミュニティ」の活動をふり返って

中山 薫

今度、地御前コミュニティ推進協議会は、名譽ある県知事表彰をうけました。

ふりかえってみますと、昭和五十二年当時の、宮沢県政は、福祉社会と連帯を、県政の大きな柱として、コミュニティ推進活動が進められ、県下六地区の指定の一つとして、わがふるさと地御前がその指定をうけました。その指定をうけた背景には大きく次の様な要因がありました。その一つは都市近郊の沿岸地帯で人口及び面積等の立地、また新旧の人達の混

間を愛し、人間が幸福に生きるよう望んでおられます。その方に向いて心の声を上げ、掟を守る為に助けを求めるのが信仰者の態度なのです。近頃、家庭で子供に信仰を教えることができる親は少く、社会でも学校でも信仰の教はありません。特別の学校を除けば、だから教戒師の勤めは大切なのです。

住の条件、もう一つには、各種団体の活動の実績や、協力体制の素地があり将来に期待が持てる、ことなどが県指定の考えであったように思います。

おもえば、わがまち地御前の、私達の先達は、遠く海外に雄飛し、そうした中であっても、わがふるさとを、こよなく愛してこられました。

戦後は、あの混乱のなか郷土愛に燃える青年達の情熱のほとばしりにより、青年連盟が結成され、また、いろいろな「イベント」が

行われ、そこには多くの人達の協力と連帯の輪があり、まさに、コミュニティ活動そのものでありました。

今は今昔の感のする地御前一丁目廻しも当時は清流のおもかげもあり、秋には愛好家により、有料の釣り大会が行われ、遠くは、広島、大竹方面から多くの人で、賑わったことなど、懐かしくおもわれます。

「じこせんひろば」は創刊号から今回で三十八号が発行され、十五年のときが過ぎます。

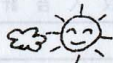
今、私はその時代々のページをひもどいてみると、人々の心の想い出、人の心と和の大切さを感じずにはいられません。

宮沢県知事が来館され「集る、学ぶ、結ぶ」の揮毫をのこされたこと、ハワイ移民百周年記念地御前渡布物故郷追悼親善訪問の記事など多くの記事を見るのが出来、記事のなかから、地域のあゆみと人々の心を知ることが出来ます。私達は人の心と、ふるさとを、愛し、わがまちの発展と傳承のため、今後ともみなさんと共に努力していきたいと思っています。

地域の支えの中で

地御前小学校長

荒木 尚子



地御前地域の皆様、平素より、学校教育に対しましては、陰に陽にあたたかく御支援をいただきましてありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、平成四年度は、学校教育にとりましては、明治以来の大改革実施の年となります。

一、学校週五日制の導入

二、体験を重視し、児童、生徒一人ひとりの個性を生かす新教育課程の前面実施

三、興味・関心・意欲・子どものよさを重視した、新しい教育観、評価観に基づく実践

の三点です。この改革で、学校は、生涯学習の基礎を培う場、自己教育力を育てる場として位置づけられました。教育を、今までの学校教育依存型、知識偏重型ではなく、体験を重視し、子ども達にゆとりをもたせ、地域の教育力をもまちながら生涯を通して高めていこうということです。

現代は、高度経済成長の中、地

域社会の急激な変化によって様々な体験の場が失われ、地域や家庭の有していた教育力が著しく低下しています。地域での遊びや手伝い等で身につけていた生活の知識や付き合い方等、人間としてのありようを子どもなりに学ぶ場が非常に少なくなってきたのです。

そこで、学校では、古い歴史や伝統をもつ地御前地域の特色を生かして、地域文化や産業について折にふれて知らせたり、教材化したりして、地域に根ざした豊かな学習をさせたいと思っています。

そのためには、郊外での学習を多く取り入れたり、地域のことに詳しい方を講師として、児童に話をしていたいだたりして、出来るだけ社会体験や感動体験をさせ、地域の教育力を豊富に吸収させたい。そして、地域に愛着をもち、主体的に考え、行動できる子どもになってほしいと願っています。

地域の皆様、日常生活の中で、子ども達にいろいろと働きかけていただけませんか。話したり、共に活動したりする中で、人間としての生き方を自然に学びとっていきますよう、よろしくお願い致します。学校も精一杯がんばります。

社会福祉と

奉仕の心



光の国 望月 教子

節制と勤労によって戦中戦後を支え、今日の日本の繁栄をもたらした方々が、神の祝福のしるしである、長寿を迎えられました事は誠に慶賀にたえません。

日本の人口構造は、若年人口の



減少により、早晩、逆三角形になるのですから、今のうちから高齢者の生きて来られた道を、閉ざさない社会造りをしなければならないと、公民協力で研究が進み、全

国津々浦々で、多角的活動が見られるようになりました。成熟した社会文化の誕生が、期待できるのではないかと存じます。

さて、社会福祉法人光の園は、原爆孤児の援護育成の為、昭和二十二年に創設され、以来、養護施設として多くの児童を育んで参りました。立地条件に恵まれた環境を、更に社会の為に役に立てる方法を検討して参りました結果、行政の指導のもとに、ケアハウス、インマヌエルホームと、廿日市市デイサービスセンター光の園を平成四年より併設する運びとなりました。幸い、優秀なスタッフにも恵まれましたので、安心して御利用いただけると存じます。

光の園の特殊性は、子供と老人と若者が、ありのままの姿で交流できるという事でございますし、創立当初より、皆様の善意に支えられているという事でございます。これからも、明るい、あたたかい家庭的な施設造りを、地域の皆様の力でしていただきたいと念ずる次第でございます。何卒、倍旧の御厚意を賜われますようお願い申し上げます。

平成3年度・地御前コミュニティ推進協議会収支決算書

平成4年度地御前地区コ推協収支予算書

平成3年度地御前地区コ推協収支決算書

収 入 の 部 (単位 円)

項 目	前年度 予算額	収入済額	増減	本年度 予算額	説 明
会 費	293,100	282,600	△10,500	311,850	150円×2079
助成金	160,000	160,000		160,000	市民課より
諸収入	10,500	68,454	57,954	88,498	
一般寄付 預金利子	10,000 500	65,000 3,454	55,000 2,954	10,000 500	
繰越金	97,732	97,732		78,368	
収 入 合 計	561,332	608,786	47,454	560,718	

収 入 の 部 (単位 円)

項 目	当 初 予算額	補正 予算額	計	収入済額	増減	内 訳
会 費	293,100		293,100	282,600	△10,500	150円×1884 未収入49世帯
助成金	160,000		160,000	160,000	0	7/15 市民課
諸収入	10,500		10,500	68,454	57,954	
一般寄付 預金利子	10,000 500		10,000 500	65,000 3,454	55,000 2,954	4/5 漁協 8/26 郷土文化保存会 9/9 利息 3/9 利息
繰越金	97,732		97,732	97,732	0	
収 入 合 計	561,332		561,332	608,786	47,454	

支 出 の 部 (単位 円)

項 目	前年度 予算額	前年度 支出額	本年度 予算額	説 明
運 営	70,000	56,958	63,000	
会議費	5,000	5,100	5,000	諸会議費
事務費	10,000	11,741	10,000	事務用品・通信費など
地域活動費	15,000	11,000	13,000	地区の触れ合い行事への助成
青年会館 維持費	20,000	12,717	15,000	青年会館電気代・保険料など
雑 費	20,000	16,400	20,000	お祝い・おみやげなど
事業費	480,000	473,460	480,000	
広報部	100,000	111,240	100,000	じごぜんひろばの発行
文化部	65,000	53,000	65,000	地区の諸行事への協力・歴史散歩・ 工作教室など
福祉部	95,000	95,000	95,000	高齢者・一人暮らし昼食会・交流会・ 社会福祉への支援など
体育部	180,000	178,766	180,000	地区運動会・ハイキング・グランド ゴルフほか
生活部	30,000	30,000	30,000	より良い環境作り・高齢者との触れ 合い昼食会ほか
青少年部	10,000	5,454	10,000	祭りの事故防止・清掃作業・パト ロール活動ほか
予 備 費	11,332		15,000 2,718	公民館落成祝い
支 出 合 計	561,332	530,418	560,718	

支 出 の 部 (単位 円)

項 目	当 初 予算額	補正 予算額	計	支出済額	残 額	内 訳
運 営	70,000		70,000	56,958	13,042	
会議費	5,000	雑費より100	5,100	5,100	0	4/5 監査会・用紙代
事務費	10,000	雑費より 1,741	11,741	11,741	0	4/30 切手 6/21領収書 1/16フェスタ 3/10 上質紙 3/16はがき
地域活動費	15,000		15,000	11,000	4,000	8/2 海晴が丘盆踊り 8/12インターハイ激励費
青年会館 維持費	20,000		20,000	12,717	7,283	3/10文化保存会 4月～3月電気代 11/1青年 会館保険料 12/2管理者歳暮
雑 費	20,000	△ 1,841 事務へ1,741 会議へ 100	18,159	16,400	1,759	10/25 油木香典 1/16小方供 物 1/16川本香典 3/3 掲示板修理
事業費	480,000		480,000	473,460	6,540	
広報部	100,000	11,240 文化部より	111,240	111,240	0	7/30じごぜんひろば発行 3/30じごぜんひろば発行
文化部	65,000	△ 11,240 広報部へ	53,760	53,000	760	6/14御陵衣神事 11/1歴史散 歩 郷土文化 1/10とんと祭 金剛寺 2/24たこ作り
福祉部	95,000		95,000	95,000	0	9/11敬老会 10/7ひとり暮らし 昼食会 12/9寄付 12/18・ 3/6 ひとり暮らし昼食会
体育部	180,000		180,000	178,766	1,234	3/23永福交流会 5/19運動会 11/18ハイキング
生活部	30,000		30,000	30,000	0	2/24グランドゴルフ保険料 3/23 グランドゴルフ 3/24保管箱
青少年部	10,000		10,000	5,454	4,546	7/1 永福交流会 7/10ゴキブリ りだんご講習 10/9ひとり暮らし 昼食会 3/23永福交流会
予 備 費	11,332		11,332	0	11,332	7/30管弦祭パトロール 1/26 通学路清掃 1/28清掃用具
支 出 合 計	561,332		561,332	530,418	30,914	

収入合計 608,786円
支出合計 530,418円
差引合計 78,368円 (平成4年度へ繰り越し)

平成四年地区運動会

盛大に行われる

五月十七日に地御前地区市民大運動会が行われました。この運動会は地御前地区に住んでいらっしゃる方々から、子供からお年寄りまでの方々の健康、生きがい、コミュニケーションを図ることを目的としています。各役員さんにおかれましては種目ごとに出席される方々を選出されまして、当日は運営に支障がない様に心づかいをしていただき本当にありがとうございます。又各種目に参加下さいました皆さん、応援に来て下さいました多数の皆さん、その中には初めてお会いされる方々、顔



は見た事はあるがお名前が？とか、お話をあまりした事がないという方々もあったと思いますが、この地御前地区大運動会に参加して、お名前がわかり、お話しも良くなるようになったという方々が多少でもいらっしゃると思います。このような輪がいろいろな場所で作られる様に心がけて住み良い町作りになるように頑張ります。

じげんかきの生立ちと現状

地御前漁協組合長 吉 岡 好 夫

昭和二十四年九月六日に、地御前廿日市漁業協同組合とし設立、現在は地御前漁業協同組合に改称し、正組合員三六名、准組合員七七名で構成、運営しております。

今では、かき養殖業が主要漁種となり、三三名の経営者により、むき身にして年間一五〇〇トン位を生産し、"地御前かき"のブランドで各地において好評を博しております。

かき養殖の変遷を辿ってみますと、昭和九年に当時の青年部二〇名が、地御前水生会を結成し、かき養殖の試験研究をし、その当時盛んに行われていた、いわし船曳網、打瀬網、手繰網、つぼ網、底曳網、漁業等の反対意見が多いなか、ひび建式養殖法や、やぐら式垂下養殖法により事業化を進め、かき養殖を行っておりましたが、戦争により昭和十七年頃中断され、戦後になり簡易垂下式養殖法で再開されました。現在行われている筏式養殖法は、昭和三〇年頃より少しずつ転換され始め、昭和四〇年

と言われている、東京の築地市場へは、地御前で生産される生鮮用の約八割位を出荷し、"地御前かき"は日本一であるとの名声をいただいております。加工用原料としては冷凍かき用、缶詰用、乾燥かき用の原料とし、三月から五月中旬まで生産したものを出荷しており、さすがに"地御前かき"だという評価をいただいております。

縄本 眞理
豆撒きの声 鈴する 鈴の寺
佐伯 好枝
探梅の人 声わたる 峽の径
山崎 久
引潮の残し ゆきたる 桜貝
吉田 春
面目もなしと 薬師の 風邪声に
黒川 寿美
ひねもすを 湯気たて 籠り 生薑湯
焚く 護摩の 炎上つくす 節分会
石井 青歩
追儺豆打てば そこより 動くもの

編集後記

じげんひろばも昭和五十二年の創刊以来回を重ねて三十九号の発刊となりました。平成五年度は四十号となります。其の間各方面の方々よりご寄稿を頂き今日まで続けてまいりました。皆様のご協力を深謝致します。これからも皆様のご力添えを頂き発行を続けて行きたいと思います。

村上きくゑ
羅漢寺の臘梅の香にまみれけり
坂本 朝
風花の舞へる 朝に 逝ける 姉

地御前公民館 俳句クラブ作品抄

丹良本香豆
越智あきら
紅梅の老幹の守る二輪かな
常吉 ぬい
寒梅の蕊 凛々と 日をはじき

No.39-H05

高令者の集い 今市会

コ推協副会長 吉本 武

「先ず健康」。小学校校則をモットーにして平成二年六月から始まりました。会の始まりは老人クラブの旅行の時、参加者が病気になる健康管理の必要性を痛感しました。

高令化社会に、不老化ではない体力づくりを、そして子供達との交流の場をひろめ、地域のあるいまちづくりを発展的に継承することです。

近代の日常生活は一昔前にくらべると一段と豊かになりました。これも日本経済が目覚ましく産業化社会へと遂げたお陰でしょうが、一方で、勤労者世帯の増加、核家族化等の様々な生活環境の変化がおこり、要援護老人等の家族介護に支障がもたらせることになりました。

高令者社会を迎えるその中で豊かな人生を送るには、一人ひとりが互いに助けあっていきましよう。近年寿命はのびたが、不健



康な人が増加しています。推計では二十一世紀初期には、六十五才以上の老人人口は三千万人、内二百万人は寝たきり老人と、二百二十万のボケ老人が存在するだろうと云われています。理想的な老後をおくるためには、自分自身でそれなりの準備が必要です。家族に対して何らかの役割を果た

せることと、最後まで身のまわりの事は自分で出来るよう努力をして、希望をもって毎日を楽しく過ごしましょう。

「今市会での合言葉」

一、朝のめざめに、まず一杯の水
二、健康管理、脳の老化を防ぐ
三、食生活、高血圧、糖尿病、肥満
四、子供との交流をおこなう
五、老人介護は笑顔で声かけ

今市会では高令者同士が毎月一回集まって、在宅看護職の会員さんの協力と指導をえて、血圧測定、健康相談、歌ったりおしゃべりしながら、折り紙・ちぎり絵など指先をつかう工作等で、三時間のふれあいの場も回を重ねる毎に皆さんの親しみが深まりゆくとともに、お互いを気遣うことにより、互いの健康を意識するようになり、みんなが楽しみに参加されています。

子供達との交流も、何をするかは参加者が皆さんで決めます。わらじ作りやお手玉作りもします。郷土めぐりのスゴロクあそびなど老人との触れ合いは子供達を大きく成長させるようです。昔の遊びを通して、多くの伝統を継承していきたいですね。

じげんひろば



№. 39
発行 平成5年3月25日
地御前コミュニティ
推進協議会

さゝえあい心の通う福祉社会

地域の誇り

広島県洋画界の先駆者

小林千古にふれて

地御前小学校長 荒木 尚子

地御前小学校校庭の北端、旧道沿いに、「小林千古生誕の地」の石碑があります。

昨春、町内会長の松本武様より「小林千古画集」（廿日市市発行広島県立美術館編集）をいただいたことから、朝会で簡単ではありますが、全児童に、千古碑について説明をすることができました。地御前が生んだ、日本洋画家の巨匠「小林千古」については、ご存知の方が多いと思いますが、学校の一面にありながら、子ども達はほとんど知らない状態でした。

この度、四年生が社会科の学習（地域に残されている古い物などを手がかりに、地域発展に尽くした先人たちの努力や苦労を知る。）で、千古について、地域の方々に積極的に聞き取りをして、千古の生涯や作品について、まとめたりそれを発表したりして楽しい授業を展開いたしました。

子ども達や職員が多くの方々に

おたずねして、大変御迷惑をおかけしましたが、中でも、千古について詳しい渡辺通様や、傷んだ絵の修復をされた山水万達様。千古のご親戚の中谷雪枝様方には、



お忙しい中懇切丁寧に教えていただきまして心より感謝しております。

また、十年前、NHK番組「まぼろしの洋画家、小林千古」放映の際、研究に携わられていて協力された、当時の県立美術館学芸員の岡本隆寛様、現主任学芸員の大井健地様には、千古の足跡や絵のすばらしさについて、時間をさいて詳しく教えていただきました。

千古が明治の中期、米国の美術学校在学中、最も権威あるコンクールで最優秀賞をとり、卓越した才能の持ち主であったこと、パリでは、黒田清輝と交友を深めつつ「パッション」（地御前公民館所蔵）等大作を描いたこと、帰国後日本洋画壇にデビュー。黒田清輝に推され、学習院女学部助教授に任命されたこと、作品は西欧の伝統的名画の影響を受け、宗教的理念に支えられたものであり、広島県洋画界の先達であるだけでなく、日本洋画史にも記録を留めたい画家であることなど、聞けば聞く程にその存在の大きさに気づかされました。

自分達の町からこのような素晴らしい方が生まれ、活躍したこと

が分かるにつれ、子ども達は感動し、喜々として更に足まめに聞き取りを重ね、史跡を歩いて、意欲的に楽しく学んでいきました。郷土の誇りとして一人ひとりにとって随分励みになったと思います。

この他、地域に根ざした学習としては、低学年では、自然に触れる機会を多くもったり、地御前地域の民話を紙芝居化したり、中高学年では、かき養殖や、昔の生活、伝統工芸や、ハワイへの移民、阿品の防空壕跡、市役所の働き等について調べました。

子ども達がグループで三々五々何度もお邪魔したりして、大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

今後も、地域に興味関心を持ち、自分達の生活をしつかりと見ずえるためにも、子ども達自身で調べ活動の時々は展開させていきたいと思っています。そして、伝統を誇る地域文化を継承して、郷土を愛し、地域の発展を願い、世界へも大きく雄飛しようとする人間を目指して、精いっぱい努力をして参りたいと存じます。

今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

百歳を迎える母の

在宅介護

松本 武

三月十四日満百歳を迎える母の長寿は、地域の皆様の心からのご支援の賜と感謝いたしております。ふとしたことから母は足を骨折し、広島総合病院に入院、諸先生方や看護婦さんのお陰で、約二ヶ月後自宅で療養することになりました。

退院の日が丁度二年前の節分の寒い日でした。病院の温かい部屋から急に自宅に移ることになり、第一に遭遇したのが室内環境の温度湿度調整換気等の問題、病人の食事栄養調理、病床での衣服寝具のこと、病人の生活リズムの把握介護体制、介護に当たる者の介護の技術、病人への接し方、話の仕方など、今までには考えもしなかった問題が次から次へと考えられ介護について多くの方々から貴重な体験を教えていただくことの必要性を切実に感じました。

そして得た知見で病人を取りまく多くの問題点を適切に解決して行くことの大切さを感じました。その幾つかを挙げると、早速に

市の福祉事務所を訪れて色々と指示していただき、寝台の貸与を受けました。（この相談は現在は市の保健課の老人福祉の係担当です）

栄養については知人の栄養士の方からの知見をいただいています。毎週一回在宅介護に看護婦さんが訪問して下さって、直接ご指導をいただいております。

毎週月曜日には光の園のデパートの入浴サービスを受けています。

また清鈴園のショートステイに介護者が体験入所させていただきました。

介護には私達兄弟姉妹の四人が地御前に居り何れも齢七十にもなっていて元気で、それぞれの家内一同で百歳の母の介護ができることを幸せに思っています。

現在、市においては前記の他に種々広範な老人福祉サービスが実施されていると聞いております。

私達もいつの日かお互に介護し介護される日が参りますその日のために、老人福祉がどのように展開され私達がその恩恵に浴されるかを知っておくことの大切さを判っていただきたいと、皆様への感謝をこめてこの文を記しました。

一人暮らし老人を

皆で支えよう

梶上 清三

高齢化社会が進む中で老人の人口は増加し、若者は郷里を離れて後に老人が残され、遂に単身世帯となって孤独な暮らしをしておられる老人が多くなって参りました。

然し老後を住みなれた地域でわが家で隣人や友人とともに暮らしたいと願っておられます。お年寄りには年々が進むにつれて心身の機能は次第に低下します。

このような一人暮らし老人をいたわり、老人同士の親睦をはかり市民との交流を深め、明るい老後の生活が送れるような町づくりを努めねばなりません。これはコミュニティ推進協議会の大事な行事です。

ささえ会という会を作り、日頃一人で暮らしている老人を集め、公民館に於いて健康チェックし、手足の運動・歌等楽しい昼食会を行っています。料理は女性会・福祉部婦人部員の皆さんがお年寄り達に心をこめて料理したものです。女性会の皆さんの働きを感謝します。

正行寺日曜学校

からの手紙

松野 真哉

この様に地域の皆様のご協力によって昼食会を実施しています。これからも地域の皆様のご理解、ご協力を賜ります事を願いたします。

日曜学校を再開（戦前にもあったようですから）して20年になります。その間多数の子供達が、仏の子として育ってゆきました。もう結婚して、父となり母となった者も多々あります。手を合わせる事の出来る子に、やさしい子になっておくれとの願いを込め、一生懸命やってみてまいりました。しかし、そのようになつてくれたかな？

いつも気になっていました。卒業していった子供達が、勉学に、スポーツに熱中している姿、又、幸せそうに子供をだっている姿をみると嬉しくて、微笑んでしまいます。6年間、日曜学校で聞いた仏様のお話を忘れないで、嬉しい時、悲しい時、淋しい時、思い出して、きつと、きつと素晴らしい人生を歩んでくれる事を信じています。